

生食ぶどうへの生産転換とブランド化に伴い、人口の社会増を達成 【長野県生坂村】

いくさかむら

国土強靱化

一億総活躍

地方創生

【工夫のポイント】

- 基盤整備の実施により、**荒廃桑園**や**水田**、**約30ha**を高収益の**ぶどう畑**に**転換**。
- ぶどう畑のうち**約15ha**は**村農業公社**が育成した**新規就農者16名**により**営農が継続**され、公社の**特産品開発**や**活性化施設**で**地域活性化**を促進。
- 村産の**生食ぶどう**を「**イクサカラット**」として**独自ブランド化**。

生食ぶどうへの転換による収益性の向上

区画やかん水施設が**整備された樹園地**で、担い手が**高収益な生食ぶどう**の生産を拡大。



基盤整備
(H3年～H8年)
(H27年～)

【整備前】

- **急傾斜で矮小な未整備ほ場**であり、機械の導入が困難なため、**耕作放棄地が増加**。



【取組地域の概要】

- 位置 いくさかむら
長野県生坂村(過疎、特農、山村)



- 主要作物
・生食ぶどう(巨峰、シャインマスカット、ナガノパープル)、水稲 等
- 主な支援施策
・団体営土地改良総合整備事業(H3～H8)
・県営土地改良総合整備事業(H7～H11)
・県営中山間地域総合整備事業(H27～)

基盤

生産現場

担い手

加工・流通

ぶどうのブランド化による販売額の向上

- 生食ぶどう栽培は、公社を中心にして**村全体**で栽培技術を共有し、**高品質を確保**。
- 「**イクサカラット**」として**村独自のブランド化**を推進。

新規就農者支援制度による担い手の確保

- 公社では、**新規就農者支援制度**により農地や苗の手配、**生食ぶどうの栽培技術の習得**や**販路開拓**等を支援。工事完了後**16名**が**就農**し、**村全体のぶどう農家の約半数**を占める。



実践的な研修制度

新たな活性化施設による販売

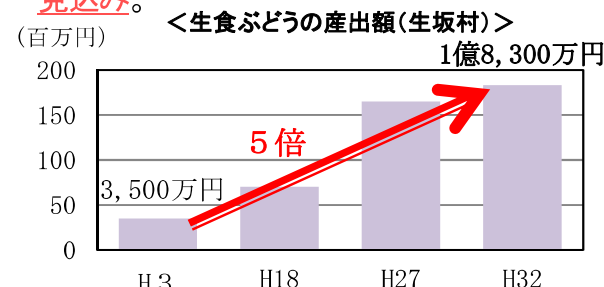
- 事業で整備した新たな**活性化施設**や**インターネットを活用した直売**等で販売額が増加。村内産大豆を使用し、公社が加工している豆腐等も人気。



活性化施設

儲かる農業の確立により、人口の社会増を達成

- 生食ぶどうの産出額は**約5倍に増加する見込み**。



- 新規就農者支援制度により、**16世帯59人**が**定住**。**過疎指定地域**にもかかわらず、**社会増3%を達成**。

